健康、生きがい 福祉都市

痴ほう性老人などの介護のため 八千代デイホーム（仮称）開設

日中の介護が必要な老人を預かるデイホーム事業（大山台ホームで）

痴ほう性老人など日中の介護が必要な老人を預かることで家族の負担を軽減するデイホーム事業を大山台ホームで実施していますが、八千代保育園（上大川前通二）に併設する八千代デイホーム（仮称）でも実施します。定員はおおむね八人で、十月ごろにオープンの予定です。

自力や家族の介護だけでは入浴できない在宅の寝たきり老人を対象に巡回入浴サービスを行っていますが、巡回入浴車を一台増車し三台にすることで、三十日に一回だった入浴間隔をおおむね二十日に一回に短縮します。また、折り畳み式簡易浴槽を三台購入し、在宅の寝たきり老人のために貸し出します。

独り暮らしのお年寄りや老人世帯などに対しても、電話による「声の訪問」や自己電話のシルバーホン「あんしん」（ワイヤレス）への切り替えなどのサービスの充実を図ります。

視覚障害者のために 点字要約文書を添付

障害福祉課内に点字プリンターを導入し、同課から視覚障害者あてに発送する文書に、その内容を要約したものを添付します。

心身障害者小規模通所授産施設「白山（しろやま）作業所」が旧舟江図書館跡（稲荷町）に移転するため、同図書館建物を障害者が利用できるように改修します。

心身障害者小規模施設の運営費助成を通所施設について十万円ずつ増額するほか、専任指導員などを「東福祉作業所」と「千草の舎」に各一人、「大山台福祉作業所」に二人増員します。

年利三%と低利な障害者住宅整備資金の貸付限度額を二百四十万円から二百五十万円に引き上げます。

県補助事業だった被保護精神障害者社会復帰モデル事業を新年度からは市単独事業として実施します。同事業は、関係機関と連携しながら、退院後の住居の確保など、精神障害者の入院から自立までの各段階に応じた適切な社会復帰対策を推進していくものです。

中、岡山、曽野木地区に 老人憩いの家を新築

老人憩いの家を中地区、岡山地区、曽野木地区の三カ所に新築します。これで市内の老人憩いの家は三十カ所になります。このほか、昨年年間五カ所だったゲートボール場造成費助成を二倍の十カ所に拡大します。

高齢化社会の諸問題について市民が一体となって考え、理解を深めることを目的とした「長寿社会を考える市民の集い」を秋に開催します。また同じ時期に、介護が必要な老人のための日常生活の用具や機器を紹介する「福祉機器展（隔年開催）」も開催します。

ゼロ歳児保育を拡大 坂井輪、敷島など4保育園

児童福祉では、生後六カ月以上の乳児を対象としたゼロ歳児保育を、六十二年度から実施している三保育園のほかに、新たに坂井輪、敷島、ロータリー、山潟の四保育園でも実施します。

保育料は国の徴収基準に比べて平均で一九・七%を軽減し三歳未満児の最高限度額を四万一千円に抑えます。

学童保育のひまわりクラブを中野山地区と山潟地区に新設します。また、新年度から二カ年継続事業で南部公民館（関屋金鉢山町）を改築しますが、改築後に関屋地区ひまわりクラブを併設します。

母子家庭に対して、公衆浴場無料入浴券の交付、交通災害共済加入費の助成などを新年度も引き続き実施します。

社会福祉では、地域福祉計画を策定するボラントピア事業に対する助成を拡大します。

胃がん検診 61歳、62歳にも拡大

検診車による集団検診

母子保健では、B型肝炎母子感染防止対策に努めるほか、婦人の貧血検査など従来どおり実施。

成人や老人の保健については、基本健診の市単独検査項目に新たにALP（肝機能検査）を加え、胃がん検診についてもレントゲンの直接撮影を従来の四十・四十五・五十・五十五・六十・六十五歳の五歳刻みの検診に六十一歳・六十二歳を加えて拡大実施していきます。なお、基本健診、胃がん検診、子宮がん検診の検診無料年齢を従来どおり六十歳以上とし、国制度より十歳引き下げています。また、大腸がんモデル検診（胃集団検診者で四十歳以上の人に実施）は、新年度から市単独事業で行うとともに、四十歳以上で医療終了後機能訓練を必要とする人に対しては、今までの大山台ホーム、北部コミュニティセンターに加えて、西地区事務所分庁舎にも機能訓練施設を設け利用の便を図ります。そのほか四十歳以上の在宅寝たきり者や家族に対する保健婦・看護婦の訪問指導対象者の拡大や民間の老人保健施設（病院と特養ホームの中間施設）の建設に対する助成などとなっています。

精神衛生面では、精神障害者の社会復帰を促進する回復途上者通所作業訓練事業に対する助成額の増もはかっています。

休日急患の診療に助成

医療面では、市民病院の医療機器の購入を一億円増やして三億円とするほか、市医師会・県歯科医師会の休日急患診療センターや市医師会の在宅当番医制事業、小児科・内科・外科の病院群輪番制事業に助成を行っています。

水道局

最大給水量を 36万㌧に増量

今後の水需要に対応するため、七十年を目標年次として計画給水人口を五十四万人（現行五十一万人）、一日最大給水量を三十六万（同三十三万㌧）㌧に増量します。これを実現するため、上水道第五回拡張事業として新年度から四カ年継続で総事業費七十六億円を投じ、阿賀野川浄水場の拡張と竹尾配水場の新設を行います。初年度は用地取得費など十二億二千二百万円。

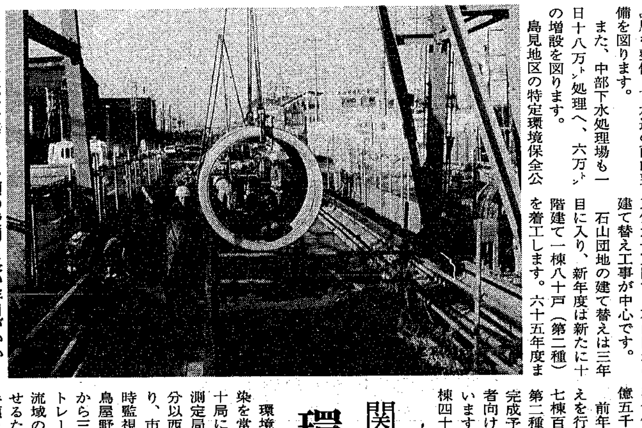
都市総合情報システム モデルシステムを作成

新潟テレトピア（高度情報文化都市）推進のため財団法人・新潟テレトピア振興協会に三千万円を拠出します。新年度が最終年度で、六十一年度からの拠出金総額は一億五千万円。また、CATV事業三者を一本化し第三セクター化を図るために三千万円を出資します。

市内地図に道路や水道などの情報を入れ、データベース化する都市総合情報システム構築事業は、新年度にモデルシステムを完成させ、本システムの効果などの検証を行います。

水と緑 環境都市

公共下水道を整備促進


下水道建設事業には多額の費用と長い年月がかかります

前年度当初比四三・七%増の九十億四千万円を投じて公共下水道の建設に力を入れます。建設への組織体制として下水道部も新設。鳥屋野排水区、東部処理区での幹線下水管建設の総延長は約十一・四㌔が予定されています。

市単独事業としては、白山、関屋、鳥屋野の各排水区などでの下水管敷設に三十二億四千万円を投入し総延長約二十㌔を整備、下水道の面的整備を図ります。

また、中部下水処理場も一日十八万㌧処理へ、六万㌧の増設を図ります。

島見地区の特定環境保全公共下水道建設事業は、新年度五億七千万円をかけ処理場と幹線などの建設を進めます。

雨水対策では、坂井輪排水区と東部処理区で建設を進めるほか、二カ年継続事業の物見山雨水貯留池が新年度で完成します。

水洗化促進のため、私道に排水設備をつくる際に工事費を助成する対象を、従来の「五年以内に下水処理開始の区域」から「下水管が処理場につながっている区域」へと拡大します。

大山台団地を建設

市営住宅の建設事業費は十三億六千万円で、石山団地の建て替え工事が中心です。

石山団地の建て替えは三年目に入り、新年度は新たに十階建て一棟八十戸（第二種）を着工します。六十五年度までの継続事業で、全体事業費は十億五千万円。新年度は二億五千万円を投入します。

前年度から引き続き建て替えを行っている三、四階建て七棟百四戸（第一種二十四戸、第二種八十戸）は今年七月に完成予定。この中には、高齢者向けのものが十戸含まれています。また、十二階建て一棟四十八戸（第一種）は来年二月に完成の予定。

さらに、石山団地内の店舗用地約二千六百平方㍍を六十五年から分譲しますが、周辺商店街と調和のとれた分譲計画にするための調査も行われます。

新年度から大山台団地の建設も二カ年継続で行われ、全体事業費一億七千万円で高齢者仕様五戸を含む三階建て一棟十五戸（第二種）が建設されます。

そのほか、高齢化社会に対応する住宅行政を展開していくための地域高齢者住宅計画の策定に着手します。

じゅんさい池公園に「ホタルの里」建設

公園緑地の整備事業には大山台公園建設や白山公園改修などに八億一千万円が投じられます。

前年度から三カ年継続の大山台公園の新年度工事は園路や広場、十二㍍の高台をさらに生かした展望台（高さ十五㍍）が予定されています。白山公園の改修工事も引き続き行われ、新年度は五千万円をかけて園路、修景施設、トイレ、創設者楠本正隆の銅像などが整備されます。

新規事業としては、JR越後線—昭和大橋間の「信濃川リバーサイド緑地」整備と、じゅんさい池公園内にカワニナを養殖しホタルを人工的に育てる「ホタルの里」建設が計画されています。

緑化推進事業の主なものでは、緑化への市民の啓蒙を図るための新潟市の「木」と「花」の制定、二十一世紀に向けて緑豊かで潤いのある「まちの中の森づくり」を目指した都市緑化推進計画（調査費を計上）があります。

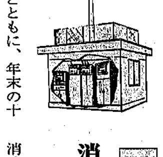
じゅんさい池公園内に「ホタルの里」を建設

関分以西に 環境測定局を設置

環境保全関係では、大気汚染を常時監視するため、市内十局に配置している一般環境測定局を今まで手薄だった関分以西にも設置することにより、市内全域の大気汚染の常時監視を充実させます。また、鳥屋野潟浄化のため、今年度から三年計画ではじまったストレーナーと三角コーナーを流域の一万一千世帯に普及させるため、引き続き購入費の半額を助成します。このほか、市民の健康と快適環境を創造するための環境管理計画を六十三年度を目途に策定する予定です。

清掃関係では、古くなった西清掃センターの前処理設備や余剰汚泥脱水設備を取り替えるほか、新田清掃センターのごみ焼却廃熱の有効的利用方法の調査費も盛りこまれています。なお、ごみ収集については、五月のゴールデンウイークの五月三日、休まず収集を行うとともに、年末の十二月二十九・三十・三十一日のごみ収集も組みこまれています。

環境衛生面では、公衆浴場の設備改善に対する助成限度額を引き上げるほか、新火葬場についての調査を本年度に引き続き行い、候補地の選定など具体的な調査に入る予定です。



消防局

消防訓練場を 新設

消防・防災については、災害の未然防止と有事における被害の軽減に万全を期するため、はしご付消防自動車などを新鋭車に更新するとともに消防訓練場を西清掃センター跡地に新設します。

小金町と藤見町で 10月に住居表示

十月に小金町地区と藤見町地区で住居表示を実施する予定です。また、来年秋の実施を目指して、五十嵐中島・五十嵐三の町地区と近江・堀之内地区で住居表示の準備作業に入ります。

国際交流

ハルピン市の 日本庭園造成に協力

国際交流では、米国・ガルベストン市からの親善使節団の受け入れ、ソ連・ハバロフスク市とスポーツ使節団の交換交流、中国・ハルピン市からの友好代表団の受け入れなど姉妹・友好都市と従来どおり交流を行っていくほか、ソ連・ウラジオストク市長一行の招へいなども計画しています。また、ハルピン市太陽島での日本庭園造成事業に対して三千万円の寄附や技術援助などを行っていきます。このほか、黒龍江省への「新潟県友好の翼」に新潟市からも参加し、国際化時代に対応していくものです。

豊かな心 国際文化都市

新水族館の建設に着手 市民文化会館建設基金も設置

水族館の人気物ペンギン

新水族館の建設を三カ年継続事業で行います。敷地面積約二万八千七百平方㍍、建物の延床面積約六千五百平方㍍、総事業費は五十三億二千四百万円です。初年度は建設用地の取得や実施設計のほか、六十五年七月オープンを目指し、本体工事に着手します。

市民文化会館の建設に向けて、その構想などの検討とともに、新たに基金を設置します。初年度は八億円を積み立てます。

石造遺物の調査を実施

六十四年に一部刊行を目指す市史編さん事業は資料収集や整理などを行うほか、市民参加で神社仏閣の鳥居や石塔、歌碑、奉納額など石造・木造遺物の調査を実施します。また、「市史にいがた」の刊行と市史講座も引き続き開催します。

音楽文化会館では、六十四年に市制百周年記念事業の一つとして開催する市民ミュージカルの準備に入ります。新年度は、プラン作り、脚色、スタッフの編成のほか、市民から出演者を募集します。このほか、コンサート用グランドピアノを一台購入します。

市美術館では、優れた美術品を引き続き購入して館蔵品を充実させるほか、多くの人たちから親しみ、観賞できる企画展・常設展を開催します。

第二藤見中を新設 武道場は関屋中 二葉中 石山中に

学校施設整備では、マンモス校化した藤見中からの分離校として、第二藤見中（仮称）を二カ年継続事業で新設します。校舎は鉄筋四階建てで、体育館、武道場、プールが完備されます。六十四年九月から使用できる予定です。

校舎の増改築では、西内野小に二カ年継続で特別教室四教室を増築するほか、引き続き関屋中、二葉中の改築を行います。

大規模改修は入舟小、湊小、鳥屋野中、沼垂高で行うほか、新潟小に空き教室を改造し、木の感触を生かしたプレイルーム「集いの木の部屋」を新設します。

中学校の武道場は関屋中、二葉中、石山中に新設します。

高志高では、二カ年継続工事で第二体育館の新設を行います。

プールの改築は、真砂小、大淵小、二葉中の三校で、グランド整備は、山潟小、曽野木小、濁川中、小針中の四校で行います。

外国人による 英語教育を実施

学校教育関係では、英語を母国語とする外国人を全中学校に派遣し、生徒の英語力の向上を図るなど国際理解を深める教育を推進します。

健全育成対策として、自然教室の推進や、老人ホームへの慰問、清掃ボランティアなどを通じて、豊かな心を育てる教育活動を推進するほか、性教育推進研究会議の拡充などに努めます。

コンピューター教育の推進を図るため、推進委員会を組織し、教育での利用の内容と方向を研究し推進します。また、教職員の研修も行います。

教育相談センターでは、通年相談の実施や家庭、学校への訪問相談の強化、新潟大学との連携教育相談の拡充、登校拒否児の集団治療キャンプなどを行い、教育相談体制の充実を図ります。

児童、生徒数千人以上の図書館司書未配置校に、学校司書を配置します。新年度は坂井輪小、桜が丘小、東石山中が対象です。

児童・生徒の健康管理の充実を図るため、引き続き耳鼻科、眼科の専門校医を各五校ずつ配置します。

4年制大学の 設置を推進

私学振興では、新年度から生徒一人当たり三千五百円に増額（前年度三千百五十円）して私立高校八校に助成するとともに、新規に私立中学一校にも生徒一人当たり同額を助成。このほか私立短大などを合わせ総額一億一千三百万円を助成します。

四年制大学の設置推進では大学設置検討委員会の提言をふまえ、新年度は設置に向けて具体的な取り組みを行っていきます。

生涯教育の推進に必要な基本計画策定に向け調査研究を行うとともに、本年度発足した生涯教育推進懇談会を継続するなど生涯教育体制の整備を図ります。

西総合スポーツセンター全体の完成予想図

初の国際試合 「アジア卓球大会」 5月15日から開催

日本海側初の国際スポーツ大会「第九回アジア卓球選手権大会」が五月十五日から二十二日の八日間、市産業振興センターで開催されます。

六十一年度から四カ年継続事業で建設を進めている西総合スポーツセンター。新年度は体育館棟、屋外体育施設などの建設工事を引き続き行います。完成は六十四年六月の予定です。

年次計画で全面改修を進めている陸上競技場は、内部改修を二カ年で行います。新年度は事務室、会議室など正面左側の内部を改修します。

鳥屋野野球場は、二カ年継続でグラウンドを改修するほか、外野スタンドの一部を撤去し、両翼九十㍍を九十七・五㍍に延長します。小針野球場は、スコアボードを全面改修します。

鳥屋野総合体育館は、体操システムフロア二面を購入するほか、ランニングコースを改修します。

南部公民館を改築

老朽化の進む南部公民館（関屋田町一）を二カ年継続事業で改築します。鉄筋コンクリート造り三階建てで、ひまわりクラブを併設します。新年度は設計と本体建設工事の一部、現施設の解体工事などを行います。

青年の家を旧東警察署跡地（東万代町）に移転改築し、これに併せて女性センター、児童センター、コミュニティーセンターを含めた複合施設として整備するための調査設計を行います。

三川自然の森に 広場を造成

本年度用地を拡張した青少年三川自然の森に、多目的な用途に利用できる広場を造成するほか、園路の整備も行います。

少年の家は、テントサイトの拡張と施設内部の改善を行います。